

函館市医療・介護連携支援センターとは

～函館市の医療・介護連携の推進に向けて～

平成31年2月27日
特別養護老人ホームシンフォニー

公益社団法人 函館市医師会
函館市医療・介護連携支援センター
医療ソーシャルワーカー 佐藤 静

なぜ今、医療と介護の連携が必要か？

団塊世代が2025年に後期高齢者となるなど、今後しばらくは高齢化が進行すると予測される。それに伴い、在宅で療養する高齢者の増加が見込まれており、こうした方が住み慣れた場所で療養しながら安心して生活できるよう、医療と介護が包括的に提供される体制づくりが急務となっている。

函館市の人口と高齢化率

人口

258,616人

高齢者数

89,568人

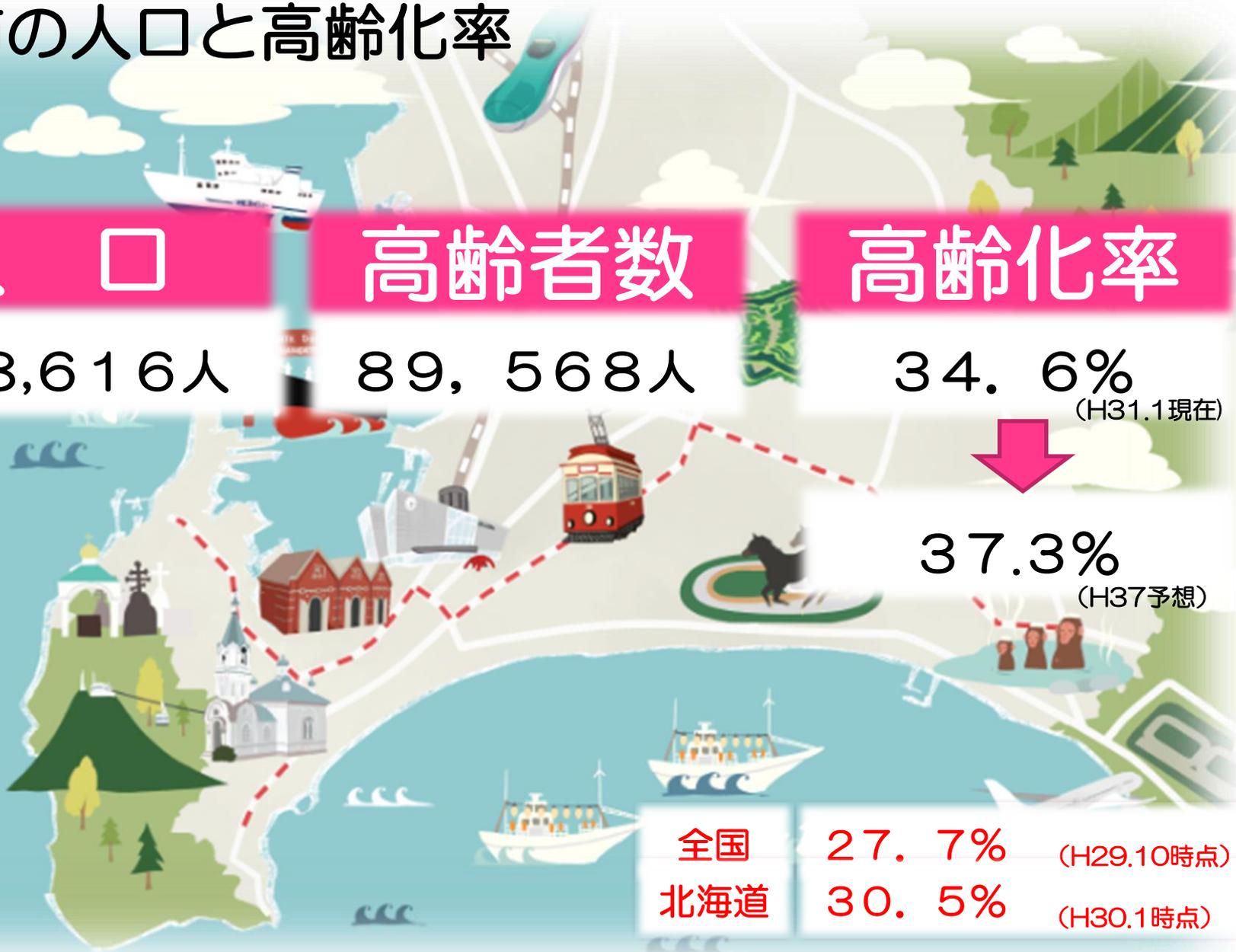
高齢化率

34.6%
(H31.1現在)

37.3%
(H37予想)

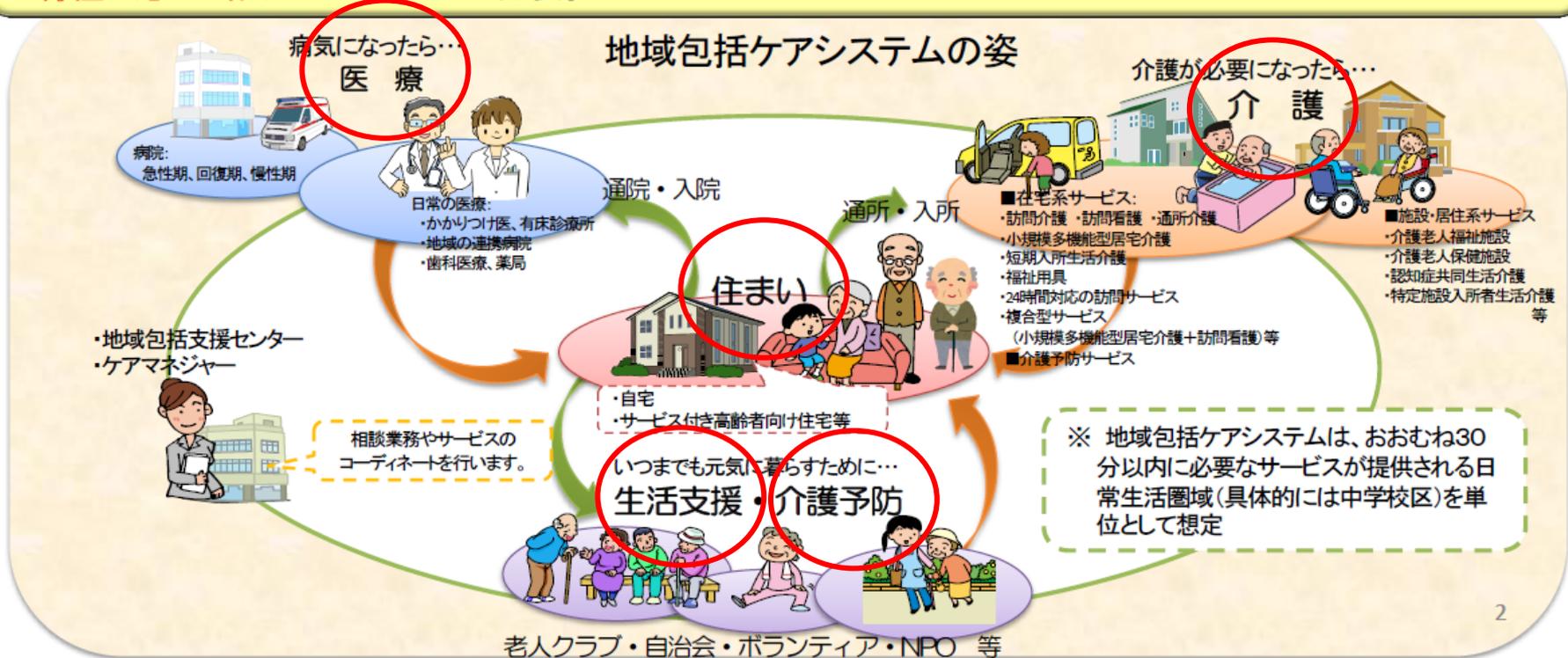
全国 27.7% (H29.10時点)

北海道 30.5% (H30.1時点)



地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



在宅医療・介護連携推進事業（介護保険の地域支援事業、平成27年度～）

- 在宅医療・介護の連携推進については、これまで医政局施策の在宅医療連携拠点事業（平成23・24年度）、在宅医療推進事業（平成25年度～）により一定の成果。それを踏まえ、介護保険法の中で制度化。
- 介護保険法の地域支援事業に位置づけ、市区町村が主体となり、郡市区医師会等と連携しつつ取り組む。
- 実施可能な市区町村は平成27年4月から取組を開始し、平成30年4月には全ての市区町村で実施。
- 各市区町村は、原則として（ア）～（ク）の全ての事業項目を実施。
- 事業項目を郡市区医師会等（地域の医療機関や他の団体を含む）に委託することも可能。
- 都道府県・保健所は、市区町村と都道府県医師会等の関係団体、病院等との協議の支援や、都道府県レベルでの研修等により支援。国は、事業実施関連の資料や事例集の整備等により支援するとともに、都道府県を通じて実施状況を把握。

○事業項目と取組例

（ア）地域の医療・介護の資源の把握

- ◆ 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、リスト・マップ化
- ◆ 必要に応じて、連携に有用な項目（在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等）を調査
- ◆ 結果を関係者間で共有



（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援

- ◆ 情報共有シート、地域連携パス等の活用により、医療・介護関係者の情報共有を支援
- ◆ 在宅での看取り、急変時の情報共有にも活用

（キ）地域住民への普及啓発

- ◆ 地域住民を対象にしたシンポジウム等の開催
- ◆ パンフレット、チラシ、区報、HP等を活用した、在宅医療・介護サービスに関する普及啓発
- ◆ 在宅での看取りについての講演会の開催等



（イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- ◆ 地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

（オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援

- ◆ 医療・介護関係者の連携を支援するコーディネーターの配置等による、在宅医療・介護連携に関する相談窓口の設置・運営により、連携の取組を支援。

（ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

- ◆ 地域の医療・介護関係者の協力を得て、在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進

（カ）医療・介護関係者の研修

- ◆ 地域の医療・介護関係者がグループワーク等を通じ、多職種連携の実際を習得
- ◆ 介護職を対象とした医療関連の研修会を開催等

（ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- ◆ 同一の二次医療圏内にある市区町村や隣接する市区町村等が連携して、広域連携が必要な事項について検討

函館市医療・介護連携支援センター

人生の最後まで
住み慣れた地域で
自分らしい暮らしを
続けられるように



センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

函館市医療・介護連携推進協議会



函館市医師会
函館歯科医師会
函館市薬剤師会
北海道看護協会
道南訪問看護ステーション連絡協議会
函館市訪問リハビリテーション協会
函館市地域包括支援センター連絡協議会
函館市居宅介護支援事業所連絡協議会
道南在宅ケア研究会
道南老人福祉施設協議会
函館地域医療連携実務者協議会
北海道医療ソーシャルワーカー協会
函館市保健福祉部
(13団体)

地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握し、課題の抽出、対応策を検討

函館市

函館市医療・介護
連携推進協議会

函館市医療・介護
連携支援センター

多職種連携
研修作業部会

連携ルール
作業部会

情報共有
ツール作業部会

急変時対応
分科会

退院支援
分科会

センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供

地域の医療・介護資源の把握、在宅医療・後方支援病院のリスト・マップ（ホームページへの掲載）

『在宅医療・介護連携マップ・リスト』の作成、普及

在宅医療・介護連携マップ

函館市在宅医療・介護連携マップ

施設タイプを選択

在宅医療 入院医療 薬局 介護(訪問) 介護(施設)

内科系 訪問 往診

「亀田本町」周辺 検索結果: 40件

この一覧を印刷する (40件)

在宅医療関係機関リスト

施設名	訪問	往診
佐藤皮膚科・循環器内科医院	訪	往
斉藤内科クリニック	訪	往
ごとう内科胃腸科	訪	往
平山医院	訪	往
函館市医師会病院	訪	往
恩村内科医院	訪	往
久保田内科医院	訪	往
こにし内科・心臓血管クリニック	訪	往
弥生坂内科クリニック	訪	往
深瀬医院	訪	往
亀田病院	訪	往
飯田内科クリニックいしかわ	訪	往

地域の医療と介護をつなぐ

TEL:0138-43-3939

平日: 9:30~17:00 / 土曜日: 9:30~12:30 / 日曜・祝日休
〒041-8522 函館市富岡町2丁目10番16号 函館市医師会病院5階

函館市医療・介護連携支援センター

在宅医療・介護連携マップ

URL: hakodate-ikr.jp

URL :
hakodate-ikr.jp
(スマートフォン対応)

○「在宅医療」もしくは「在宅医療の後方支援」に取り組む市内の病院、診療所、薬局、介護事業所などについてインターネット上で位置情報の確認や医療・介護機関の情報を表示

センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

連携ルール作業部会

『急変時対応シート』の作成、普及
(消防本部との協働)

急変時対応シート (Ver.2 H29.8) 下記に必要項目を記入の上、救急隊へお渡しください!

基本情報(性別、平成 年 月 日)

患者名	住所	〒	市	町	丁目	番	号
姓・大・姓	年	月	日	入居施設名			
性別 男・女	年齢 (歳)	出身先	市	町	丁目	番	号
TEL () () () () () () () ()	TEL () () () () () () () ()	TEL () () () () () () () ()					

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください!
重大な病気やけがの可能性がります。

下記以外の救急搬送理由 () 緊急対応日 平成 年 月 日

顔

- 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
- ニッコリ笑うと口や顔の片方ががむ
- ろれつがまわりにくい、うまく話せない
- 視野がかける
- ものが突然二重に見える
- 顔色が明らかに悪い

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の昏厥
- 変えなしで立てない
- ぐらいいふらつく

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2〜3分続く
- 痛み場所が移動する

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

腹

- 突然の激しい腹痛
- 持続する激しい腹痛
- 吐血や下血がある

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 食べ物や飲み物をとつもらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

○函館市消防本部の協力のもと、高齢者が救急搬送される時に、より適切かつスムーズな搬送につなげることができるよう、急変時対応シートを作成。

函館市医療・介護連携『急変時対応研修会』 ～介護施設等での急変時における好取組事例の報告～



- 函館市における高齢者の急変時対応の仕組みの周知と、介護施設等における好取組事例の報告を参考に、施設内での高齢者の急変時対応がより適切かつスムーズとなる事を目的として、研修会を開催
- 市内の施設関係者及び協力医療機関の医師等248名の参加となった

施設等における急変時対応のポイント

① 予防救急

- 普段からの体調の把握ができており、異常の早期発見と重症化の予防ができる。
- 施設内での多職種の情報共有、連携ができる。
- 急変時対応マニュアルが職員へ周知徹底されており、活用できる。
(施設内研修等)

② 重症化の予防

- 日中帯にかかりつけ医、嘱託医、協力医療機関への適切な報告・相談ができる。
- 医師に報告・相談後に適切な対応が取れ、職員間の情報共有ができる。
- 必要に応じて応急手当ができる。

③ 救急搬送時の対応

- 適切に通報し救急隊員到着までの間、患者の変化に注意して観察ができる。
- 救急隊員への情報伝達（伝達シート等）が準備され、適切に情報提供ができる。
- 適切に救急搬送時の対応ができる。（搬送ルート確保、救急車への同乗、持参記録等の準備等）
- 救急医療機関へ適切な引き継ぎができる。（救急車への同乗、医療機関への情報提供）

④ 再発防止のための対策

- かかりつけ医、嘱託医、協力医療機関との連携を取りながら、患者の変化に注意して、異常の早期発見に努めることができる。

センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握，情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援**
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

センターの事業内容

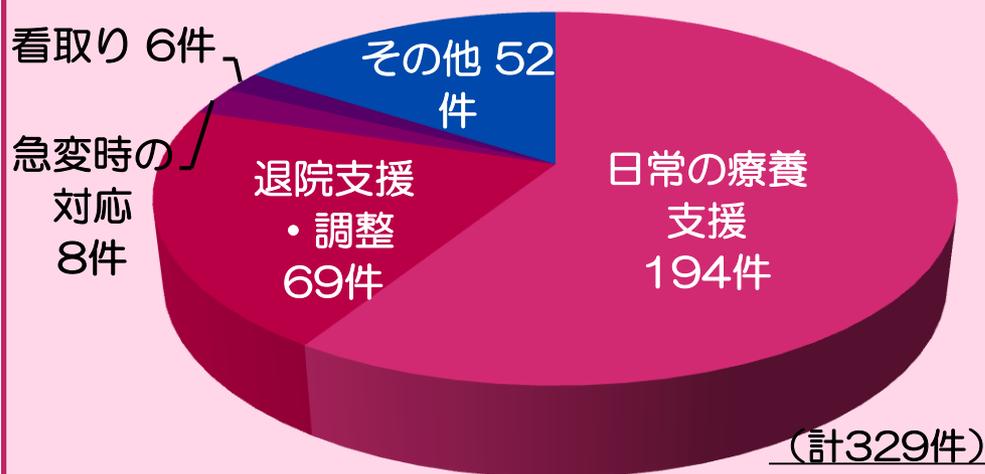
- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 **医療・介護連携に関する相談支援**
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

4 医療・介護連携に関する相談支援

介護保険の知識を有する医療ソーシャルワーカー、看護師を配置し、支援対象者や地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等から相談を受け付け、必要に応じて情報提供や支援を行う。

(電話・訪問・来所メール等で対応)

H29年度 相談内容別件数



センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 **医療・介護関係者の研修**
- 6 地域住民への普及啓発

5 医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を実現するため、
多職種でグループワーク等の研修を開催

多職種連携研修作業部会

『医療・介護連携多職種研修会』の開催

別紙 研修概要書

名称	第3回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目的	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月から稼働している「函館市医療・介護連携支援センター」の実績報告によりセンターの機能と役割を理解する。 15職種による職種紹介とグループワークを通じて、自職種を省みる機会と多職種を理解する機会を作り、多職種連携の基盤づくりをする 関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や平直な意見交換の場として、研修会終了後に懇親会を開催する。
共催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター）
日程	平成29年11月25日（土）14:00～17:00（予定） ※ 研修終了後、職種を超えた交流を目的とした懇親会を予定
会場	花びしホテル （函館市湯川町1-16-18 電話57-0131）
司会	独立行政法人 国立病院機構 函館病院 相談支援室 医療ソーシャルワーカー 酒本 清一様
テーマ	「相互理解～自職種を省みる・他職種を理解する～」
内容	<ul style="list-style-type: none"> 講演「函館市医療・介護連携支援センター 実績報告」 演者 函館市医療・介護連携支援センター 医療ソーシャルワーカー 佐藤 静 職種紹介「専門職ができること～15職種の紹介」 グループワーク（最大30テーブル/8人掛け） テーマ：自職種として果たすべき役割 他職種へ聞いてみたいこと 意見交換
参加対象	市内の医療・介護関係者
参加人数	約240名（見込）
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途徴収 ※金額は3,500円程度）
関係者参考	【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】 北海道医療ソーシャルワーカー協会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 函館歯科医師会 函館薬剤師会 北海道看護協会 道南在宅ケア研究会 函館地域医療連携実務者協議会 北海道柔道整復師会 函館鍼灸マッサージ師連合会 函館地域域包括支援センター連絡協議会 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 道南訪問看護ステーション連絡協議会 道南地区老人福祉施設協議会 【函館市医療・介護連携支援センター】
備考	アンケート実施

平成29年度 第3回 函館市医療・介護連携多職種研修会



相互理解～自職種を省みる・
他職種を理解する～

医師をはじめとする15
職種のシンポジストに
自職種の役割について
お話いただき、同職種
でグループワーク実施



多職種連携研修作業部会

『医療・介護連携多職種研修会』の開催

別紙 研修概要書	
名称	第4回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・看取りに関する国や市の動向を理解する。 ・シンポジウムによるそれぞれの場所における看取りの現状と課題を知る。 ・グループワークによる相互理解の促進。 ・関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換の場として、研修会終了後に懇親会を開催する。
共催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター）
日程	平成30年10月20日（土） 14:00～17:00（予定） ※ 研修終了後、職種を超えた交流を目的とした懇親会を予定
会場	函館国際ホテル （函館市大手町5-10 電話23-5151）
テーマ	「地域での看取りを知る～その現状とこれから～」
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム（座長） 医療法人道南勤労者医療協会函館稜北病院 副院長 川口 篤也先生（シンポジスト） 社会福祉法人函館厚生院介護老人保健施設ケンゆのかわ 施設長 老松 寛先生 医療法人社団守一会北美原クリニック 理事長 岡田 晋吾先生 医療法人敬仁会函館おしま病院 院長 福徳 雅章先生 ・グループワーク（最大30テーブル/8人掛け） ・意見交換
参加対象	市内の医療・介護関係者
参加人数	約360名（グループワーク参加240名、聴講のみ120名）
参加費用	無料（懇親会参加費用は別途徴収 ※金額は3、500円程度）
関係者参考	<p>【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道医療ソーシャルワーカー協会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 函館歯科医師会 函館薬剤師会 北海道看護協会 道南在宅ケア研究会 函館地域医療連携実務者協議会 北海道柔道整復師会 函館鍼灸マッサージ師連合協議会 函館市地域包括支援センター連絡協議会 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 道南訪問看護ステーション連絡協議会 道南地区老人福祉施設協議会 <p>【函館市医療・介護連携支援センター】</p>
備考	アンケート実施

平成30年度 第4回 函館市医療・介護連携多職種研修会



地域での看取りを知る ～その現状とこれから～



副会長

施設医・在宅医・病院医の3名の医師にご講演いただき、それぞれの場所を意識した看取りについて多職種でグループワーク実施



多職種連携研修作業部会

『医療・介護連携多職種研修会』の開催

医療従事者向け研修



医療側には介護の
事情を介護側には
医療の事情を知る
機会として開催

介護従事者向け研修



函館オープンカンファレンス
開催病院との協働



急性期と在宅が協働
して、経過のプロセス
を振り返り、新たな
視点でケアを考え、
次のケアの在り方や
方法を検討



センターの事業内容

- 1 地域の医療・介護の資源の把握、情報提供
- 2 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
- 3 医療・介護関係者の情報共有の支援
- 4 医療・介護連携に関する相談支援
- 5 医療・介護関係者の研修
- 6 地域住民への普及啓発

在宅医療や介護サービス等に関する出前講座等を開催 リーフレットの作成、配付等により、理解促進を進める

函館市医療・介護連携支援センターとは

このセンターでは、医療と介護の両方を必要とされる高齢者が、住み慣れている地域で安心して自分らしく生活していけるように、市民の皆さまからの在宅医療などに関する不安やお悩みのご相談をお受けしたり、医療機関や介護事業所などの情報提供を行っています。また、高齢者の医療・介護に携わる関係者の方々の連携のサポートも行ってまいりますので、お気軽にご相談ください。

在宅医療・介護連携に関する相談支援

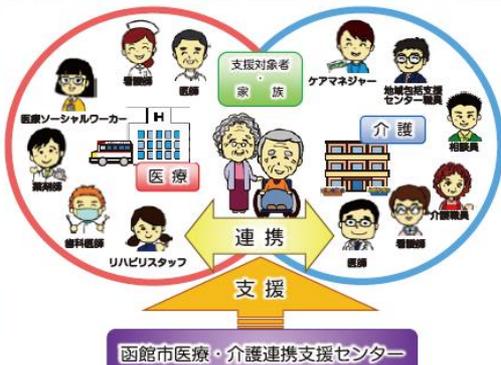
市民の皆さまからの在宅医療などに関する不安やお悩みのご相談や、地域の医療・介護関係者および地域包括支援センターなどからの連携の調整に関するご相談に対応します。

医療・介護関係者の情報共有の支援

地域の医療・介護関係者の連携に必要な、標準的な情報共有ツールを整備します。

地域住民への普及啓発

在宅医療や介護サービスに関する講演活動や、リーフレットの作成・配布などにより、地域住民へ在宅医療の仕組みなどをお知らせします。



医療・介護関係者の研修

地域の医療・介護関係者の連携を推進するために、多職種連携研修の企画・実施、地域での研修情報の提供などを行います。

切れ目のない医療・介護の提供体制の構築

入退院支援・日常の療養支援・急変時の対応・看取りなどの様々な局面に関わり、地域の医療・介護関係者と協働し、連携の基本となる各種の仕組みや、ルール作りを行います。

地域の医療・介護資源の把握、情報提供

地域の医療機関、介護事業所の所在地や機能などを把握し、これまでに自治体が把握している情報と合わせて、リストまたはマップを作成、公開します。

市内の高齢者大学等へ出前講座を開催



地域の医療・介護関係者からの声…

医療と介護連携、その前にチーム内連携は 図れていますか？

- ◎ チームの輪の中心にいるのは、利用者さん
 - ◎ 信頼できる第三者は、利用者さんにより異なる
 - ◎ 職種が違っててもチーム内連携が図れていたら問題ない
 - ◎ 得意分野に自信と誇りを持ってケア
 - ◎ かといって苦手をそのままにではなく、学ぶ姿勢を
 - ◎ それぞれのチームメンバーの強みを知る
 - ◎ 困った時は解決できる人を頼る
 - ◎ その為には、チーム内で話しやすい関係を
- それぞれの得意分野を生かして、
チームで伴走

医療用語が分からない

でも、医療関係者も介護用語が分からない

- ◎ 「医療が悪い」、「介護が悪い」ではない
- ◎ 単に職種やそれまで働いてきた環境が違うだけ、知らないだけ
- ◎ 相互理解が必要…医療関係者に介護を知って貰う、介護関係者に医療を知って貰う
- ◎ 医療・介護のサポートがあればリスクを軽減できる

お互い寄り添う思いやり

治療を終えて、いざ退院という時に 施設（在宅）に戻れないと言われても…

- ◎ 「医療が悪い」、「介護が悪い」ではない
- ◎ 介護側の事情、医療側の事情をお互いに知らないだけ
- ◎ 相互理解が必要…入院のタイミングで事情を説明しましょう
- ◎ 病院任せではなく、協働して支援を

思いやりを込めた支援を協働

こんなの無くても連携できてるから…

- ◎ なんて言ってる方が意外と連携できてなかったり？

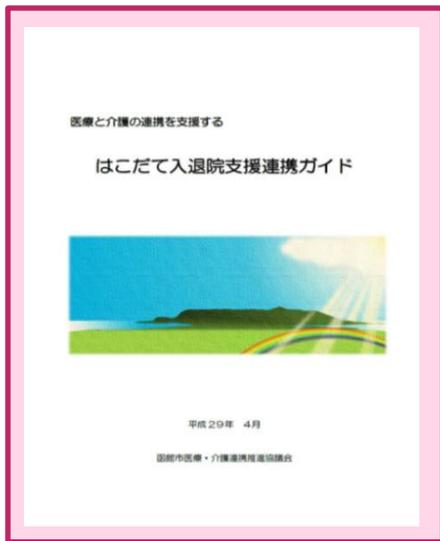
使う事で本当に連携につながるの？

- ◎ 考えてても連携は進みません　そして、使うことが連携ではありません　これらのツールを利用して皆さんで連携を進めてほしい
- ◎ 手段や材料はあるので、あとは上手く使ってください
- ◎ 医療・介護の連携促進には、皆さんの力が必要です

医療・介護連携推進事業の役割は

医療側の動きを知りたい
こちらの動きを知って欲しい

利用者さんの情報を知りたい、
貰いたい、渡したい



顔の見える関係を構築したい



- ◎ 皆さんの希望をかなえ、連携を進めるためのサポート
- ◎ そのためのきっかけを提供

まとめ

- ◎ ガイドがあるから、研修してるから、ツールがあるから連携できてるわけでは無い
- ◎ それらはあくまでも連携促進に繋げるきっかけであり、手段
- ◎ それらを通して皆さんが連携を進めていく
- ◎ 利用者さんの幸せのために動く必要がある